

総合的な学習の時間学習指導案

呉市立両城中学校 指導者 3学年教諭

日 時 令和4年10月6日(木) 14時25分～15時15分
学年・学級 第3学年 男子22名 女子27名 計49名
単 元 名 地域に貢献しよう

1 単元について

本単元の目標

- 両城中学校区の特長や魅力について情報を収集、整理・分析し、地域の一員として自分にできることは何かを考え、自らの課題を設定し、防災の取組または地域の魅力発信の取組を通して地域の活性化のため主体的に行動していくことができる。

単元観

- 本単元は、本質的な問い「地域の一員として、よりよく生きるためにはどうしたらよいただろうか。」を基に構想した。1年次から継続して取り組んできた地域貢献の活動内容を踏まえ、鹿児島県徳之島町立井之川中学校の生徒に自分たちの暮らす両城中学校区の特長や魅力をどのように伝えていくかを考える活動を通して、本中学校区で設定した資質・能力【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体性】を育成することをねらいとしている。

本単元は、これまでの学びを相手意識をもって表現するのに適した題材であり、また井之川中学校の発表を受けて、両城との共通点や相違点を比較することで、より多面的・多角的に地域を見つめ直すきっかけとなることが期待される題材である。このような学びの姿は、授業者が設定した本質的な問いを具現化するものであり、本中学校区小中一貫教育の目標である「自ら進んで学び合い、認め合う児童生徒の育成」につながると考える。

生徒観

- 本学年では、1年次より地域に貢献できる生徒の育成を目指し総合的な学習の時間を進めてきた。各自の強みを生かし、案内グループ・パンフレットグループ・お助け隊の3つのグループに分かれ、自分たちにできることは何かを考え取り組んできた。地域の方との協働清掃活動、まちづくり事業としてパンフレット作成(2年次)活動等を通じ、生徒の地域や社会貢献への意識は91.7%と高い。一方、「自分が誰かの役に立っている」という自己有用感は81.3%と、高い数値ではあるもののまだ十分とは言えない。これは、コロナ禍で当初予定していた観光客への案内を実施できなかったことや、パンフレットの完成が年度末となり、完成後の取組が十分にできなかったこと等、地域や社会に向けての活動が制限されたことが大きく影響している。

このことから、実際に他地域との関わりの中で両城中学校区をPRする場を設定することで、達成感や自己有用感を高めていく必要がある。

指導観

- 指導にあたっては、次の点に留意する。

第一次では、生徒会執行部主体の防災の授業や赤十字の方の講義を通して、災害・防災の知識のみでなく、自分たちが地域の一員、当事者として主体的に行動していきたいという意欲を高めたい。

第二次では、鹿児島県徳之島町立井之川中学校の生徒との交流を設定することで、目的意識や相手意識を明確にもって表現できるようにする。

第三次では、井之川中学校との交流を振り返り、新たな地域貢献の可能性を考える活動を通して、地域の一員としての自覚を高め、さらに主体的に地域と関わろうとする姿を期待する。

単元を通して、本質的な問い「地域の一員として、よりよく生きるためにはどうしたらよいただろうか。」を意識した課題を設定し、自分で選択した地域貢献に取り組ませることで、自己有用感を高めたい。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 両城中学校区の特色や実態，アピールポイントを知っている。 ② 災害や防災に関する知識・技能を身に付けている。	① 広い範囲から課題を見付け，設定し，計画の見直し，改善を図っている。 ② 多様な情報を整理・分析し，目的に応じて取捨選択して活用し，その情報の意味と必要性や考察の合理性を考えている。 ③ 相手や目的に応じて，ICT機器等を活用し，分かりやすく表現している。	① 地域の一員として，自分にできることは何かを考え，行動しようとしている。 ② 地域の良さを再確認し，その良さを他者に分かりやすく伝えるために，主体的に実践する意欲を高めている。

3 単元と評価の計画（全40時間）

〈本質的な問い〉 地域の一員として，よりよく生きるためにはどうしたらよいか。		
次	学 習 内 容	評 価
		評 価 規 準（評価方法）
一 次 （ 15 ）	課題の設定 ○ 昨年度まちづくり事業として作成したパンフレットの完成品を紹介し，このパンフレットを活用してどのような地域のPRができるか，またパンフレットの活用以外に今年度どのような地域貢献に取り組めるかを考える。（1時間） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 地域をよりよくするために，自分たちには何ができるだろうか。 </div>	・地域の一員として，自分にできることは何かを考え，行動しようとしている。【主①】 （行動観察）
	情報の収集 ○ ハザードマップをもとに地域の危険箇所を把握するとともに，様々な災害を想定し，命を守るためにどのような行動をとれば良いか考える。（4時間） ○ ゲストティーチャーとして赤十字から講師を招き，防災についての講義をしていただくとともに，ハイゼックスシートを活用した炊き出し調理について学ぶ。（2時間） ○ パンフレットグループは，作成したパンフレットをどこに置くことが可能か調べる。その他のグループは，今年度どのような地域貢献ができるか調べる。（3時間） 整理・分析 ○ 集めた情報を整理し，分析する。（2時間） まとめ・創造・表現 ○ グループごとにまとめた内容を発表する。パンフレットグループは，「くれえばん」のインタビューに向けて準備する。（2時間） 振り返り ○ これまでの学習内容を振り返りまとめる。（1時間）	・災害や防災に関する知識・技能を身に付けている。【知・技②】 （ワークシート，発言） ・両城中学校区の特色や実態，アピールポイントを知っている。【知・技①】 （ワークシート，発言） ・多様な情報を整理・分析し，目的に応じて取捨選択して活用し，その情報の必要性や考察の合理性を考えている。 【思・判・表②】 （ロイロノート，行動観察）

課題の設定

- 井之川中学校との交流に向け、新たな課題を設定する。(1時間)

井之川中学校の生徒に分かりやすく伝えるためには、どのように伝えたらよいだろうか。

情報の収集

- グループごとに井之川中学校へ伝えたいことを考え、必要な情報を集める。(9時間)

整理・分析

- 集めた情報を整理・分析し、分かりやすく伝えるためにはどのような方法が適しているかを吟味する。(5時間)

まとめ・創造・表現

- 他グループと交流し、お互いに良かった点や改善点を出し合い、グループの発表を改良する。(2時間)

実行

- 井之川中学校と交流し、両城中学校区の案内をしたり、これまで学んだことを発表したりする。(2時間)
【本時】

振り返り

- これまでの学習内容を振り返りまとめる。(1時間)

・広い範囲から課題を見付け、設定し、計画の見直し、改善を図っている。【思・判・表①】
(ワークシート)

・両城中学校区の特徴や実態、アピールポイントを知っている。
【知・技①】 (ワークシート, 発言)

・多様な情報を整理・分析し、目的に応じて取捨選択して活用し、その情報の必要性や考察の合理性を考えている。

【思・判・表②】
(ロイロノート, 行動観察)

・相手や目的に応じて、ICT機器等を活用し、分かりやすく表現している。【思・判・表③】
(発表)

・地域の良さを再確認し、その良さを他者に分かりやすく伝えるために、主体的に実践する意欲を高めている。【主②】
(ワークシート)

三 次 (5)	<p>課題の設定</p> <p>○ 井之川中学校との交流を振り返り，地域の発展のために何ができるかを再考し，新たな課題を設定する。（1時間）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> これまでの学びを生かして，自分たちは地域の発展のために何ができるだろうか。 </div> <p>整理・分析</p> <p>○ 井之川中学校の発表から，鹿児島県徳之島と両城中学校区を比較し，両城中学校区の特色や魅力を探る。（1時間）</p> <p>○ これまでの学びで発見した地域の良さや防災に関する知識を，今後だれにどのような形で伝えていくことができるか考える。（1時間）</p> <p>まとめ・創造・表現</p> <p>○ グループごとに考えた意見を交流する。（1時間）</p> <p>振り返り</p> <p>これまでの学習内容を振り返りまとめる。（1時間）</p>	<p>・広い範囲から課題を見付け，設定し，計画の見直し，改善を図っている。【思・判・表①】 (行動観察)</p> <p>・地域の良さを再確認し，その良さを他者に分かりやすく伝えるために，主体的に実践する意欲を高めている。【主②】 (ワークシート)</p>
---------------	--	---

4 本時の目標

両城中学校区の魅力やこれまで学んできた防災の知識を，ICT機器等を活用し井之川中学校の生徒に分かりやすく伝えることができる。

5 評価規準

相手や目的に応じて，ICT機器等を活用し，分かりやすく表現している。【思・判・表③】

6 本時の展開

分	学習活動 ☆主な発問 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
2	課題の設定 1 本時のめあてを確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 井之川中学校の生徒に、分かりやすく呉の特色や魅力、これまで学んできた防災の知識を伝えるには、どうしたらよいだろうか。 </div>			
15	情報の収集 2 井之川中学校の発表を聞き、鹿児島県徳之島の特色や、井之川中学校の生徒の取組について知る。	○双方向のやり取りであるため、メモはとってよいが、できるだけ顔を上げ相づちを打つ等、聞く姿勢に留意させる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ☆徳之島には、呉とは違うどんな特色や魅力がありましたか。 </div>			
<ul style="list-style-type: none"> ・アマミノクロウサギやハブ等、呉では見られない動物がいる。 ・スーパーでも、ドラゴンフルーツ等呉ではあまり見られない物が売られている。 ・美しい海に囲まれており、マリンスポーツが盛んに行われている。 			
5	整理・分析 3 井之川中学校の発表を受け、感じたことや聞いてみたいことをまとめ、伝える。	○両城中学校区との共通点や相違点に着目させる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ☆井之川中学校の発表を聞いてどう思いましたか。また、どんな疑問をもちましたか。 </div>			
<ul style="list-style-type: none"> ・初めて知る動物や食べ物がたくさんあり驚いた。 ・呉からも海は見えるが、呉の海よりもきれいで驚いた。きれいな海を守るために、徳之島の人たちはどのような取組をしているのだろうか。 			

15	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>4 案内グループ、パンフレットグループ、お助け隊の3つのグループに分かれてそれぞれの発表を行う。</p> <p>☆井之川中学校の生徒に、分かりやすく呉の特色や魅力、これまで学んできた防災の知識を伝えるには、どうしたらよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画等を見せながら説明する。 ・呉についてあまり詳しくないと思うので、ただ案内するだけでなく、なぜ階段住宅が建てられることになったのか等、歴史的背景等を踏まえながら紹介する。 	<p>○案内グループは事前に現地を訪れて録画した案内動画を配信する等、グループごとに表現方法を工夫させる。</p>	<p>相手や目的に応じ、ICT機器等を活用し、分かりやすく表現している。</p> <p>【思・判・表③】 (発表)</p>
5	<p>5 井之川中学校からの質問や感想に受け答えする。</p>	<p>○井之川中学校の質問や感想から、自分たちにはなかった視点に気付かせ、両城中学校区の魅力や特色を再発見させる。</p>	
	<p>☆井之川中学校の生徒からの質問や感想を聞いてどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂が多くて驚いたという感想を聞いて、私たちにとって当たり前の風景も、他地域にとってはめずらしいものなのかと驚いた。 ・呉の食べ物や動物についての質問を受け、動物についてはうまく答えることができなかったので、もっと調べてみたいと思った。 		
8	<p>振り返り</p> <p>6 本時を振り返り、今後の学習の見通しをもつ。</p>		
	<p>☆井之川中学校の生徒との交流を通して、あなたはどのようなことを感じましたか。また、今後地域の発展のためにどのようなことに取り組んでいきたいですか。</p>		
	<p>振り返り例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちにとって当たり前の景観が、他地域の人にとってはめずらしいものであるということが分かった。この景観を大切に守っていきたい。 ・Meetを使えば簡単に遠くの人とつながれるので、今後他の地域の人にも両城の良さを伝えていきたい。呉の特色について答えられなかった質問もあったので、もっと調べていきたい。 		

本質的な問い

地域の一員として、よりよく生きるためにはどうしたらよいだろうか。

単元名

地域に貢献しよう

児童生徒の実態

- ・自己肯定感が比較的高い。
- ・まじめに学習に取り組み、基本的な情報を整理・分析する力が身に付きつつある。
- ・相手意識をもち表現することに課題がある。
- ・主体的に課題の改善に努めようとする態度に課題がある。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

- ・広い範囲から課題を見付け、設定し、計画の見直し、改善を図ることができる。（知識・技能）
- ・多様な情報を整理・分析し、目的に応じて取捨選択して活用し、その情報の必要性や考察の合理性を考えることができる。（思考力・判断力・表現力）
- ・わが街の良さを再確認し、その良さを他者に分かりやすく伝えるために、主体的に実践する意欲を高めることができる。（主体性）

単元を貫く問い

両城中校区の発展のために何ができるだろうか。

【探究課題

地域の特徴・特性を踏まえた地域活性化のための取組

】

【第3次】（ 5 時間）

課題

発表を振り返り、地域の発展のために何が
できるか、再度考える

個別の問い

- ・両城中校区の発展のために、今までの取組以上に何ができるだろうか。
- ・他地域の特徴・特性を踏まえ、両城中校区のさらなる発展のために何ができるだろうか。

井之川中学校
からのフィード
バック

（しかけ）

井之川中学校への発表を振り返ることを通して、自分たちの課題に気付かせ、改善させる。

【第2次】（ 20 時間）

課題

井之川中学校へ伝える

個別の問い

- ・各グループの取組を簡潔に伝えるには、どのようにしたらよいだろうか。
- ・正確に相手に伝わるような言葉を吟味し、表現するにはどうしたらよいだろうか。

Zoom or
Meet

パンフレット

（しかけ）

お互いに調べたことや体験したことについて交流することで、地域貢献のあり方について考えを深めさせる。また、井之川中学校から話を聞くことで、他地域の実態について理解させる。

【第1次】（ 15 時間）

課題

防災や地域のことについて考える

個別の問い

- ・地域の危険箇所の把握（災害の予測）
- ・地域の特色をどのようにPRしたらよいだろうか。
- ・災害時に自分たちにできることは何かあるだろうか。

ハザードマップ

炊き出し調理

（しかけ）

赤十字から講師を招き、災害時に自分たちにできることを考えさせる。

見直しポイント

探究的な学習の過程に沿った単元構成

- ①単元を通して、資質・能力を育成する「探究課題」等を設定しているか
 - ・解決の道筋がすぐには明らかでない課題や、一つの正解が存在しない課題となっているか。
 - ・児童生徒が日常生活や社会に目を向け、解決したいと思える課題となっているか。
- ②児童生徒の思考を想定し、効果的な過程になっているか
 - ・活動をこなすだけになっていないか。
 - ・児童生徒から問いを生み出すしかけがあるか。
 - ・学習したことを表現する場を設定しているか。
- ③サイクルとサイクルのつながりがスムーズとなっているか
 - ・第1次だけで構成していないか。
 - ・第1次のまとめと第2次の課題設定が繋がっているか。

1 「本質的な問い」による単元構想について

- 本単元の本質的な問いに対して、生徒は自分たちで課題を設定し、単元を通して主体的に考え、行動することができた。課題解決のためにグループで対話を重ねることで、自分ごととして捉え、考えを深めることができた。特に、地域や社会、及び他校との交流は、自己や自校を改めて再認識・再構築するうえで効果的であり、表現力の育成にも繋がった。

2 単元で育成を目指す資質・能力について

【知識・技能】

- 生徒が自ら課題を設定し取り組んだことで、より防災意識が高まり、自分事としてとらえるようになったことが、生徒の発表や振り返りからうかがえる。

生徒アンケートの項目 4段階評価（4全くそう思う 3そう思う）		肯定的評価（4の値）		肯定的評価（3と4の値）	
		R4.7	R4.12	R4.7	R4.12
1	いつも「自分の命は自分で守る」ことを意識して生活している	75.0%	81.3%	93.8%	95.8%
2	「土砂災害対応携帯マニュアル」を常時携帯し、いつでも見ることができるようにしている	79.2%	85.4%	91.7%	93.8%
3	自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している	75.0%	81.3%	93.8%	95.8%
4	災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している	62.5%	77.1%	95.8%	93.8%
5	家庭で防災について話をしたり、いざというときどのように行動すればよいか家庭のルールを決めたりしている	27.1%	50.0%	75.0%	91.7%

- 引き続き、継続していくことが必要である。今後はさらに、学習した災害・防災に関する知識を、下級生や保護者、地域の方に伝えていく活動を実施することで、平成30年豪雨災害を風化させないようにするとともに、地域全体の防災意識を高める活動にしていきたい。

【思考・判断・表現】

- 鹿児島県の井之川中学校とのオンラインによる交流会での発表に向け、各グループでリハーサルを繰り返す中で、工夫改善を図り、分かりやすく表現する力が向上した。振り返りでは、次の課題を発見した生徒が多く、生徒の思考は継続していたと考えられる。井之川中学校の発表に刺激を受けて、自分たちの発表をさらに改善・向上させたいという意見も見られた。
- コロナ禍で地域交流ができなかったが、鹿児島県の井之川中学校との交流の場をもつことができたことはよかった。今後は防災と同様に、下級生や保護者、地域の方に発信していくことで、多様な相手に応じた表現方法を工夫し発表させることで、表現力のさらなる向上を目指していきたい。

生徒アンケートの項目 4段階評価（4全くそう思う 3そう思う）		肯定的評価（4の値）		肯定的評価（3と4の値）	
		R4.7	R4.12	R4.7	R4.12
1	授業のはじめに、授業の見通しや授業の課題意識をもっている	37.5%	50.0%	85.4%	91.7%
2	授業で、教科等の見方や考え方を働かせて、考えを深めている	41.7%	56.3%	83.3%	91.7%
3	授業で、生徒同士で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	52.1%	66.7%	93.8%	91.7%
4	授業中に疑問や課題に対し主体的に考え、まとめたり、表現したりするなどの活動に取り組んでいる	35.4%	50.0%	83.3%	87.5%
5	授業で考えることが楽しい	20.8%	39.6%	77.1%	81.3%

【主体的に学習に取り組む態度】

- アンケートに「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した生徒の肯定的評価は91.7%であったことから、主体的な学びを進めることができたと考えられる。またこの背景には、地域や社会との交流、地域や社会へ向けての情報発信という活動が大きく貢献していることがうかがえる。
- 生徒の感想「話し合うことで、新しい発見があったり、分からなかったところが分かったりして、より深い学びができた。」「友達に説明することで自分がどれくらい理解しているのかを確かめることができた。」から、対話的な学びが生徒の主体的な学習を促進したこともうかがえる。

3 「デジタル機器」の活用

- Meetは他校と交流するのに非常に有用なツールであった。交流以外の場でも、町案内の動画を編集し送信したり、赤十字の方から学んだ炊き出し調理を家庭でも実践したり、ロイロノートで共有したり等、学び合いをスムーズに進める手立てとなった。
- 「タブレット等ICT機器を活用して、効率よく学習を進めている」と回答した生徒の肯定的評価（3と4の値）の割合：95.8%（肯定評価（4の値）：72.9%）



Meetでの交流の様子

別紙様式